

ひまであること

星峯中学校 三年 下之園 直輝

「ひまだな。」

僕はたまにこの言葉を口にしている。朝起きてご飯を食べ、学校に行き、そして帰り、夕食を食べ、勉強し、寝る。毎日同じリズムで過ごす。この毎日同じことをすることで感じる「ひま」こそ僕が身近に感じる平和だと思う。このような考えをもったのには、あるきっかけがあった。

道徳の授業で、「エリカ」という物語について考えた。この物語を読む前、先生は「あなたたちなら、この物語が何を伝えたいのか自分で考えられるはずだ」と言った。僕は読んですぐに分かった。「エリカ」は、第二次世界大戦のころ、ドイツで行われたユダヤ人の虐殺に関する話だった。ただでさえ不衛生な環境で過ごす人々に銃口をむけておどす場面や、我が子を手助けするために家族のむちやな行動など、死にむかうまでの人々の行動や心情がいくつも書かれていた。「もしも自分があの場にいたなら。」と考えると気分が悪くなった。この時初めて、こんなのんびりと暮らしていることは、あたりまえではないと感じた。

この「エリカ」を読んだり、テレビで戦争体験者が、苦しそうな、悲しそうな表情で体験談を語っている場面を見たりしているうちに僕は、平和は、一つ一つの願いや理想が積みかさなってできているものだと思った。

だがそんな積み上げているものは、くずれやすいものだ。実際、日常では使われないような言葉がネット、会話などで使われている。それは暴言だ。ケンカやトラブルがおきた時「死ぬ」「消えろ」などの言葉を、最近聞くことが多い。いくら冗談であってもこんな言葉を簡単に使うことは、絶対にあってはならないことだと思う。自分

だったらどうなのか考えず、相手のことを傷つける、これは戦争と似ていないだろうか。

今の僕たちは、世の中が平和であることがあたりまえと考えてしまっている。そして戦争とはちがうかたちで気付かぬうちにまた平和を壊そうとしている。例えば、周囲の人に対する暴言などの問題も、自分のその言葉が誰かを傷つけてしまわないか、犠牲が生み出されないかを見きわめることができれば、解決することができる。善悪を見極めることや相手の気持ちになることこそが、戦争のような大きな問題を防ぐことにつながるのだ。

だが問題を解決、防ぐだけではこの平和を正しく過ごすことができないと思う。僕たちがすべきことは継承だ。こうして、戦争について考えることができたのは、これまで、多くの人が後世に伝えてきたからだと思う。だから僕たちの代でこの継承を終わらせるわけにはいかない。日本は原子爆弾により戦争の恐ろしさを知った。だが、僕たちは直接味わったわけでもなく味わってはいけないこともある。だからこそ戦争についてもっと知って、「ひま」ってなんて贅沢な言葉だろう。」と思うぐらいにしなければならぬ。

平和は、どんな世界でも望むものだと思う。だからこそ、平和の中に生きる僕たちは守り維持させ、いつまでも継承させることが大事だと思う。それがこれからの僕たちがすべき事だと思う。そして今、国外では「黒人差別問題」や「デモ」など平和と言えないような事がたくさん起こっている。そんな中僕たちが代表となり、「ひま」という言葉を世界に伝えられ、実現できたら、どれだけすばらしい事だろう。

「ああ、ひまだなあ」と、世界中の人々の口から発せられたとき、世界は平和になったと、みんなが笑えるのかもしれない。